



## 2019年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年1月31日

上場会社名 エバラ食品工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2819 URL <https://www.ebarafoods.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮崎 遵  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 半沢 尚人 TEL 045-226-0107  
 四半期報告書提出予定日 2019年2月14日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年3月期第3四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第3四半期	40,349	0.8	2,487	49.8	2,575	47.4	1,715	56.5
2018年3月期第3四半期	40,047	△1.8	1,660	△26.1	1,746	△24.6	1,095	△26.5

(注) 包括利益 2019年3月期第3四半期 1,613百万円 (28.4%) 2018年3月期第3四半期 1,256百万円 (△20.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第3四半期	164.76	—
2018年3月期第3四半期	105.28	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年3月期第3四半期	38,858	24,794	63.8	2,381.01
2018年3月期	35,544	23,485	66.1	2,256.32

(参考) 自己資本 2019年3月期第3四半期 24,794百万円 2018年3月期 23,485百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	14.00	—	15.00	29.00
2019年3月期	—	15.00	—		
2019年3月期 (予想)				15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,211	3.6	2,091	42.2	2,175	40.7	1,394	18.7	133.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 一社 （社名）－、除外 一社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注)詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期3Q	10,468,710株	2018年3月期	10,468,710株
② 期末自己株式数	2019年3月期3Q	55,451株	2018年3月期	60,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期3Q	10,411,309株	2018年3月期3Q	10,408,710株

(注)当第3四半期連結累計期間の期末自己株式数及び期中平均株式数の算定にあたり控除する自己株式数には、「従業員向け株式交付信託」の信託財産として三井住友信託銀行株式会社（信託E口）（再信託受託者：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口））が保有する当社株式30,000株（前第3四半期連結累計期間30,000株）及び「役員向け株式交付信託」の信託財産として三井住友信託銀行株式会社（信託口）（再信託受託者：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口））が保有する当社株式25,449株（前第3四半期連結累計期間30,000株）を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料P. 3

「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2018年4月1日~2018年12月31日)におけるわが国経済は、全体として緩やかな回復基調にあるものの、消費者マインドには足踏みが見られ、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。依然として先行き不透明な状況で推移しております。

当社グループは、超高齢化、世帯人数の減少、共働き世帯の増加、人口減、社会の成熟化に伴うお客様ニーズの多様化という大きな社会変化が進むなか、その変化に適合して持続的な成長を図るべく、2014年度から創立60周年を迎える2018年度までの5カ年を対象とした長期的な経営ビジョン「Evolution 60」を推進しております。基本とする戦略方針を「エバラブランドの価値向上」と「ニッチ&トップポジションの確立」と定め、“たれの進化”と“コミュニケーションの進化”を経営の軸とし、国内市場での安定的収益と海外市場での成長基盤の確保を目指しております。ファイナルステージである2018年度は、「Evolution 60」の総仕上げの1年となります。時代の変化に適合した価値創造を加速させ、『黄金の味』の価値浸透による収益拡大、ポーション調味料のさらなる拡充、業務用事業の収益改善及び海外事業を含めた新規事業開拓による継続的成長に取り組み、新価値創造とともに新規顧客や新規チャネルの拡大を図り、次の成長につなげてまいります。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、403億49百万円(前年同期比0.8%増)となりました。その主な要因としては、テレビCMや精肉連動施策等が奏功した『なべしゃぶ』の貢献に加え、特注品や海外事業を中心とした業務用商品の業績寄与や、顧客ニーズの効果的な取り込みにより物流事業及びその他事業の売上が伸長したことが挙げられます。利益面につきましては、『黄金の味』の売上が前年同期実績を下回ったものの、価値訴求を軸とした販売活動の継続により利益面で大きく貢献し、営業利益は24億87百万円(前年同期比49.8%増)、経常利益は25億75百万円(前年同期比47.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は17億15百万円(前年同期比56.5%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### <食品事業>

家庭用商品は前年同期売上高を下回りました。肉まわり調味料群につきましては、テレビCMと連動したマネキン販売等の店頭プロモーション戦略が奏功し、『おろしたれ』が好調に推移した一方、『黄金の味』がクロス販売とWEB施策を連動させ売上面で回復傾向にあるものの、前年同期の水準には届かず、前年同期実績を下回りました。鍋物調味料群につきましては、暖冬の影響等により、『すき焼のたれ』や『キムチ鍋の素』等が前年同期水準に届かないなか、『なべしゃぶ』や『プチッと鍋』が売上に貢献したものの、鍋物調味料群全体のカバーには至らず前年同期実績を下回りました。野菜まわり調味料群につきましては、テレビCMや消費者キャンペーン等のプロモーション施策のほか、夏場以降野菜価格が安価に推移した影響により、『浅漬の素』が売上を伸ばし、前年同期実績を上回りました。その他群につきましては、『プチッとごはんズ』が引き続き売上を伸ばしたほか、チルド商品が売上を伸ばし、前年同期実績を上回りました。

業務用商品は前年同期売上高を上回りました。海外事業の売上拡大や業務用事業の収益構造の改善を進めているなか、商品構成の見直しによりスープ群が前年同期実績を下回ったものの、肉まわり調味料群が好調に推移し、その他群も特注品の増加等により売上を伸ばした結果、前年同期実績を上回りました。

以上の結果、食品事業の売上高は344億70百万円(前年同期比0.7%減)となりました。

#### <物流事業>

既存顧客の保管及び輸送需要の取り込みにより、継続的に取引が伸長したほか、新規受注に伴い取引量が増加した結果、物流事業の売上高は45億11百万円(前年同期比11.4%増)となりました。

#### <その他事業>

人材派遣事業が前年同期水準を下回るも、広告宣伝事業において顧客ニーズに適合した企画提案により、新規顧客獲得と既存顧客の深耕を進め売上を伸ばした結果、その他事業の売上高は13億66百万円(前年同期比6.5%増)となりました。

売上高の内訳は次のとおりであります。

事業名称及び商品群名	前第3四半期連結累計期間 (百万円)	当第3四半期連結累計期間 (百万円)	増減率 (%)
食品事業	34,713	34,470	△0.7
家庭用商品	27,747	27,358	△1.4
肉まわり調味料群	12,375	11,938	△3.5
鍋物調味料群	9,568	9,330	△2.5
野菜まわり調味料群	3,649	3,811	4.5
その他群	2,153	2,277	5.8
業務用商品	6,966	7,112	2.1
肉まわり調味料群	2,258	2,338	3.6
スープ群	2,620	2,489	△5.0
その他群	2,088	2,284	9.4
物流事業	4,050	4,511	11.4
その他事業（広告宣伝事業、人材派遣事業等）	1,283	1,366	6.5

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ33億14百万円増加して388億58百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が37億81百万円増加した一方、有形固定資産が5億21百万円減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、20億5百万円増加して140億64百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が9億5百万円増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、13億8百万円増加して247億94百万円となりました。これは主に、利益剰余金が14億1百万円増加したこと等によるものであります。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ2億54百万円減少し、83億56百万円となりました。

当第3四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、5億10百万円（前年同四半期は27億39百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益において25億73百万円獲得したこと等によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、5億79百万円（前年同四半期は21億46百万円の使用）となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出2億7百万円と有形固定資産の取得による支出2億38百万円等によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1億82百万円（前年同四半期は3億94百万円の使用）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額1億25百万円と配当金の支払額3億12百万円等によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年5月10日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,158	8,921
受取手形及び売掛金	9,476	13,257
商品及び製品	1,402	1,562
原材料及び貯蔵品	685	626
その他	886	980
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	21,605	25,344
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,989	2,993
その他(純額)	6,612	6,087
有形固定資産合計	9,602	9,080
無形固定資産		
	383	343
投資その他の資産		
投資有価証券	1,883	1,946
長期貸付金	175	188
繰延税金資産	1,348	1,385
その他	569	593
貸倒引当金	△23	△24
投資その他の資産合計	3,953	4,089
固定資産合計	13,939	13,514
資産合計	35,544	38,858

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,829	5,735
短期借入金	83	208
未払金	1,402	1,288
未払法人税等	288	574
賞与引当金	297	169
株式給付引当金	—	54
役員株式給付引当金	7	7
販売促進引当金	514	743
その他	356	901
流動負債合計	7,779	9,683
固定負債		
株式給付引当金	42	—
退職給付に係る負債	3,843	3,988
資産除去債務	209	211
その他	184	181
固定負債合計	4,279	4,381
負債合計	12,058	14,064
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,387	1,387
資本剰余金	1,655	1,655
利益剰余金	20,092	21,494
自己株式	△121	△112
株主資本合計	23,013	24,424
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	477	374
為替換算調整勘定	166	145
退職給付に係る調整累計額	△172	△150
その他の包括利益累計額合計	471	369
純資産合計	23,485	24,794
負債純資産合計	35,544	38,858

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
売上高	40,047	40,349
売上原価	21,380	21,556
売上総利益	18,666	18,792
販売費及び一般管理費	17,005	16,305
営業利益	1,660	2,487
営業外収益		
受取利息	2	5
受取配当金	33	28
受取賃貸料	9	6
売電収入	36	36
持分法による投資利益	6	5
その他	31	33
営業外収益合計	120	117
営業外費用		
支払利息	3	3
賃貸収入原価	5	3
売電費用	23	20
その他	0	1
営業外費用合計	34	29
経常利益	1,746	2,575
特別利益		
固定資産売却益	1	1
投資有価証券売却益	—	0
特別利益合計	1	1
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	25	3
ゴルフ会員権評価損	6	—
特別損失合計	32	4
税金等調整前四半期純利益	1,715	2,573
法人税等	619	857
四半期純利益	1,095	1,715
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,095	1,715



(四半期連結包括利益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	1,095	1,715
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	132	△103
為替換算調整勘定	2	△20
退職給付に係る調整額	25	22
その他の包括利益合計	160	△102
四半期包括利益	1,256	1,613
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,256	1,613
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,715	2,573
減価償却費	892	865
固定資産売却損益(△は益)	△0	△1
固定資産除却損	25	3
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△0
ゴルフ会員権評価損	6	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△166	△127
株式給付引当金の増減額(△は減少)	17	11
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	6	△0
販売促進引当金の増減額(△は減少)	280	228
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	155	176
受取利息及び受取配当金	△36	△34
支払利息	3	3
持分法による投資損益(△は益)	△6	△5
売上債権の増減額(△は増加)	△5,203	△3,788
たな卸資産の増減額(△は増加)	△36	△99
仕入債務の増減額(△は減少)	819	902
未払消費税等の増減額(△は減少)	△204	337
未払金の増減額(△は減少)	△260	△91
その他	△54	84
小計	△2,047	1,037
利息及び配当金の受取額	34	34
利息の支払額	△3	△3
法人税等の支払額	△723	△558
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,739	510
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
貸付金の回収による収入	2	2
貸付けによる支出	△0	△4
定期預金の預入による支出	△18	△18
投資有価証券の売却による収入	—	0
投資有価証券の取得による支出	△327	△207
有形固定資産の売却による収入	5	1
有形固定資産の取得による支出	△1,668	△238
無形固定資産の取得による支出	△161	△95
保険積立金の解約による収入	0	—
その他	21	△20
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,146	△579
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	41	125
配当金の支払額	△436	△312
自己株式の売却による収入	—	5
その他	—	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△394	△182
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	△2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△5,277	△254
現金及び現金同等物の期首残高	11,084	8,610
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,807	8,356

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	食品事業	物流事業	計		
売上高					
外部顧客に対する売上高	34,713	4,050	38,764	1,283	40,047
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	34,713	4,050	38,764	1,283	40,047
セグメント利益	1,814	158	1,972	48	2,020

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告宣伝事業、人材派遣事業等を集約しております。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,972
「その他」の区分の利益	48
全社費用(注)	△360
四半期連結損益計算書の営業利益	1,660

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	食品事業	物流事業	計		
売上高					
外部顧客に対する売上高	34,470	4,511	38,982	1,366	40,349
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	34,470	4,511	38,982	1,366	40,349
セグメント利益	2,689	157	2,847	15	2,862

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告宣伝事業、人材派遣事業等を集約しております。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,847
「その他」の区分の利益	15
全社費用(注)	△374
四半期連結損益計算書の営業利益	2,487

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。